

平成 26 年度
第 5 期中原区区民会議 第 1 回課題調査部会

日時 平成26年11月6日(木) 13:30～

場所 中原区役所 5階 505会議室

第5期中原区区民会議 第1回課題調査部会 摘録

- 1 **開催日時**：平成26年11月6日（木）午後1時30分～3時40分
- 2 **場 所**：中原区役所5階505会議室
- 3 **出席者**：成田部会長、松本副部会長、井上委員、塚本委員、中森委員、仁上委員、萩原委員【委員7名】〔欠席〕園部委員
（事務局）小野副区長、今井企画課長、江口係長、倉見係長、大崎職員、野並職員、西山職員【企画課】岩下さん【コンサルタント（株カイト）1名】
- 4 **議題等**
 - ・ 中原区区民会議課題調査部会要領について
 - ・ 正副部会長の互選
 - ・ 会議録確認委員の選任
 - ・ 議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなでまちをきれいに」に関する調査検討について
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **会議内容**
 - ・ **中原区区民会議課題調査部会要領について**

別添3「中原区区民会議運営部会要領」の内容に基づき、課題調査部会の所掌事務や組織等、正副部会長等のしくみについて、事務局が説明した。特に異議や意見はなく、その内容を承認した。
 - ・ **正副部会長の互選**

承認された「中原区区民会議課題調査部会要領」に基づき、正副部会長を互選した。塚本委員から成田委員を部会長、松本委員を副部会長に推薦する意見があり、全会一致により、部会長に成田委員、副部会長に松本委員を選任した。

○成田部会長：経験豊富な委員の皆様の中での部会長ということで、恐縮しています。地域の大ベテランである松本副部会長の助けもいただきながら進めてまいります。「地域コミュニティ」をあらゆる角度から、人と人が交流を深め、それが継続していけるようなアイデアが出せればと思います。

○松本副部会長：微力ながら、公正な議論、部会発展のために努力していきたいと思えます。よろしく願いいたします。

 - ・ **会議録確認委員の選任**

会議録確認委員の選任について第1回課題調査部会会議録確認委員は井上委員を選任。
 - ・ **第5期区民会議の審議テーマについて（進行：岩下（コンサルタント（株カイト））**

まず、資料1「課題調査部会の審議の進め方」に基づき課題調査部会の審議内容、審議の進め方、全4回予定というスケジュールの中での各回の到達目標等が示され、

確認。

続いて、資料2「第2回全体会議（10月15日）の意見・論点に基づいた検討事項」に基づき、これまでの全体会議で出された意見と課題調査部会の論点の整理案が示され、審議の土台として内容を確認。

【意見交換】

井上委員 既に美化活動に取り組んでいる方々や団体がある。新しいまちは綺麗などところも多い。区民全体で盛り上げていこうということには少し疑問もある。しかし小杉地区は今、非常に注目されている地域。ここから川崎市全体のイメージアップを発信できるのではないかな。

今住んでいる人、これから住んでいる人が一緒になって盛り上がっていくには主眼点や最終目標が重要なのではないかな。例えば日本一、世界一きれいなまちを目指す。指標やデータなど、何か示せばよいのではないかな。地域を愛し、地域の活動に積極的に参加してもらうには、何かみんながわかりやすく、インパクトのあるもの。自分のまちが自慢できるものが必要だ。

塚本委員 マンション住民の中には、ごみ問題をお金で解決している意識の方もいる。24時間ごみを出せる環境、分別も楽な環境を買っている意識だ。不動産会社も「ホテルライク」とアピールしてマンションを販売している場合もある。公園も役所が掃除するものという認識で、自分たちが暮らしている地域を自分たちで綺麗にしていこうという意識への改革がまず必要だ。NPO法人小杉駅周辺エリアマネジメントがやっている月1回の清掃では、「路上喫煙防止重点区域の指定」を目標にし、行政にもアピールしながら活動をしてきており、9月1日に指定にこぎつけた。活動の上での共通の目標があると良い。活動には住民の他、地域の不動産やコンビニ、企業が参加してくれるようになってきた。家族連れの参加もある。子どもが参加すると大人と一緒に参加する。

成田部会長 国連のESD（持続可能な教育）の10年（2005～2014年）の宣言などをきっかけに、地域の学校でも環境教育が盛んになってきている。子どもたちがそれを地域に持ち帰って、地域でイベントでもなんでもよいので、子どもたちを引きつけていけると良い。

高齢者や認知症の方の中には、分別などのルールが理解できなかつたり、体力的にごみ出しが難しい方もいる。こうした問題も考えていきたい。

仁上委員 以前と比べると、確かにまちはきれいになってきているが、細かく見るとまだ乱雑なところがある。ごみの集積所も同様だ。汚いところには、さらに通りすがりの人が新たなごみを放っていつてしまう。回収がない日はごみ集積所には何も無いことが理想なのだが、そうならない。ルールを知らないのか、知っていて守っていないのか。もう少し浸透させたい。一度きれいになっても同じことが繰り返されてしまう。地域でもう少し連絡や働きかけができないかな。

松本副部会長 中原区では廃棄物減量指導員が概ね250世帯に一人配置されている。ごみを出す時だけ黄色いネットをかぶせておくような仮設的なごみ集積所は、地域の輪番

制でネットの片づけや清掃が行われていたりするが、以前からの鉄骨でつくったボックスが配置されているような集積所は日夜や収集日を問わず、誰かがごみを捨ててしまうことがある。歩道空間を占拠してしまっているような集積所もある。集積所環境の改善や統一化も必要ではないか。

最近では犬・猫の問題もある。特に野良猫は行動範囲が2キロ圏内といわれ、地域住民間のトラブルの元になってしまう例がある。

町会で10年ほど前からフリーマーケットを開催し、子育てが終わっていらなくなった乳母車やおもちゃ、三輪車などを今度必要とされている子育て現役の方にお譲りする機会を設けている。これがマンションの住民と戸建の住民との交流にもなっている。フリーマーケットを通じて、家族の顔が見えてくる。集積所の清掃も毎月第何週の何曜日など日程を決めて、顔が見える環境の中で活動している。長年かけて定着させてきた。

中森委員 子どものイベントには保護者が大体一緒についてくる。学校でやるなら、参観日などを狙ってしかけると良いのではないか。

ごみのルール、マナーについては、捨て方がわからない方もたくさんいそうだ。外国籍の方には看板が読めない方もいる。どういう形で伝えると理解できるか考えていかなければならない。転入してくる人は必ず区役所で手続をするので、そこで資料を渡して伝えられれば良いのではないか。理解できない場合は、国際交流センターで多言語のパンフレットなども活用したい。

清掃車がくる前にカラスがごみ集積所を荒らし、道が汚くなってしまうことがある。何か新しい対策が必要ではないか。畳めるかごなどが良いのではないか。

ごみの分別についてフロンターレの選手が登場した川崎市の広報資料がある。こういう資料がもっとあると良いのではないか。

井上委員 2年ほど前にミックスペーパーの分別が始まった際に、環境局からの依頼で選手を起用したごみ集積所に貼るポスター制作をしました。昨年、ごみ収集が週3回から2回に替わる際にも、試合会場で告知チラシ配りたいと依頼がきたが、来場者は市外の方も多くいらっしゃる。そこで提案させていただいたのが、川崎市民の後援会員に会報を送る際に合わせて広報資料を送付する方法で、マグネットを制作して送付した。後援会は27,000人会員がいるが、居住地域別に資料を添えることも可能だ。年に6～7回会報を送付している。

仁上委員 数日前の町会の回覧板で、ごみ収集の方式を変えたことでごみがかなり減ったというグラフが掲載された環境局の資料を見た。プラごみ、空き缶、ミックスペーパーが増え、総量は減っているということだった。ただ最近自宅近くの収集所を見ていると、ミックスペーパーが収集開始当初ほど集まっていないのが気になっている。普通ごみでも持って行ってくれるので、元に戻ってきてしまっているのではないか。

再資源化のしくみや効果などもっと宣伝すれば、分別意識がもっと高まるのではないか。広報の第一ターゲットは、個人よりも町内会になると思う。中原区には57の町会がある。町会や子ども会や老人会、学校やPTA、これらの組織に浸

透させていけば効果があるのではないか。もう一つの対象としては、不動産業者がおもしろいのではないか。ある独身転入者に伺ったが、入居の際に特にごみの出し方の説明などを受けなかったそうだ。意識のある人なら自分で確認するだろうが。地区によって回収日が異なったりして複雑だ。間違っ理解している人もいるかもしれない。

松本副部長 転入者が区役所で手続をされる際に、様々な資料を渡すと効果的だ。ごみの出し方や避難所の場所、町内会の加入案内など。私の町内会でも加入時に説明する取組をしている。集積所清掃の取組についても資料を配布している。ひととおりまとめてパンフレットを配布している。地域の環境を良くしていけば防火、防犯効果もある。公園もきれいにしていると親子が集まってくるが、ちょっと汚れている所には寄りつかない。ホームレスが徘徊しているような公園はさらに汚くなってしまうというような悪循環がある。自分たちのまちは自分たちできれいにしていくということをモットーにする。

萩原委員 半年の間で非常に難しいとは思いますが、何とか区民会議としてのメッセージを発信し、仕組みとして継続されると良い。既存の様々な取組を区民会議委員でも結構知らなかった。町会の加入率が下がってきており、自分の町会がどこなのかを知らない人もいる。今頑張っている団体に困っていること、課題を伺うアンケートができないか。そこで勉強会や有志のネットワークができないか。最終的には冊子にまとめたい。例えば「まちをきれいにするためにできること」と題して、イラストなど使って子どもにも読みやすいようにしたい。毎日のごみ出しはこうすれば良い、こういう活動に参加ができるよ、などと発信する。発信力を高めるためにはキャンペーンも有効。フロンターレさんにもぜひ協力していただきたい。小杉フェスタで純情小町が来ていて、3Rのキャンペーンソングを歌っていたが、非常に面白かった。子ども向けのショー的にやっていくこともできるのではないか。フリーマーケットなども組み合わせ、お祭りにしていき、わっと集まってもらおう。そこで冊子を配る。行政や専門家の知恵もいただきながら。活動している方々の情報がわかって、ここに参加してみようにつながる。

松本副部長 生活環境事業所でもイベントの時にごみの分別の方法などを示した展示をしていることがある。さらに廃棄物減量指導員による分別指導をしてはどうか。実際にもものを見てわかってもらおう。みんなが集まって勉強も良い。一人が理解していただければ、それを地域に持ち帰っていただく。その繰り返しが必要だ。

萩原委員 楽しくできると良いと思う。スポーツごみ拾いはまだ詳しくみていないが面白そうだ。やぎ除草の取組は、2年目以降継続しなかった例もあると聞いている。区内でできそうなところも等々力くらいかなと思う。

松本副部長 継続がやはり大切。うちの町会では新聞や雑誌の回収にみんなで中学校校舎に運び、地域総出で取り組んでいる5年計画で子ども神輿を買う資金集めを目標としている。明確な目標の下で取り組んでいる。

井上委員 実は中原区と環境局と協力して、CC等々力エコ暮らしフェアという取組をフロンターレの試合に併せて試合会場の等々力緑地で行っている。このような既に

行われているイベントにのっかる手もある。

ただ、イベントに来ない人たちに対してどうするかということが課題ではないか。イベントをやっても決まった人しか来ないのではないか。楽しむイベントでも家族であれば参加するかもしれないが、独身者は来ない。どれだけ効果が上がるか疑問。例えば集積所のルールを守らない方は誰なのか、どうして守らないのか、そこを解決しなければ、本当の解決にはならない。より多くの人たちに届く啓発が必要であり、より効果があるのではないか。汚い集積所はどんな集積所なのか。マンションに住んでいる人は24時間いつでも出すことができ、仕分もされている。一軒家に住んでいる人にそういう環境がないことがむしろ問題なのかもしれない。マンションのような集積小屋をまちなかにも建てられないのかなと思うことがある。モデル事業でも良いので、やってみて発信していけると良い。不動産を通じて情報発信するのは良いと思う。小杉の地域を今一番宣伝してくれているのは不動産だ。

仁上委員 75 の町内会、減量指導員に地域のごみの実情や困っていることを聞けると良いのではないか。地域のルールがうまく運用されているところや、良いところの話を参考にし、その管理や手法を普及させる。集積所レベルから見直していく。分別が徹底されていない収集所では、収集車もごみを置いていき、そこにさらにごみが捨てられてしまう。

松本副部長 ごみが溜まってしまふ集積所は閉鎖して、分散させて新たに設置しなおすことで環境改善がされた例もある。場所はやはり区内にもある。

塚本委員 あまり集積所に焦点を当てすぎると取組が難しい。川崎は横浜と比べても分別が楽。その一点だけで川崎のマンションに住みたいという方もいる。24時間いつでもなんでもごみが出せる。居住環境による認識ギャップも大きいのではないか。

松本副部長 マンションの管理人が一生懸命分別をしている例もある。うちの町会は58%がマンション世帯だが、マンションから町会役員も出してもらっており、分別指導なども行っている。

成田部長 ごみを出す側の視点からどうして守らないのかを考える必要がある。輪番制が果たせない生活スタイルの方もいる。どうして守れないのか。意見や要望を拾いたい。

萩原委員 ごみだけでなく、自転車や花壇活動などもある。まちをきれいにするためにできること。活動グループや町会に調査票を出し、現場の課題を拾っていく。そこにみんなが入っていくような仕組み。イベントもキャンペーンのも有効だろう。

事務局 (コンサルト) 今日の一つの目標として、範囲が広い「まちをきれいに」の捉え方、ターゲットを絞るということがある。やはりごみに関する意見が多く出たが、「啓発やうまく出せない方への支援」「実情を踏まえたルールづくり」などの課題に絞ってどうか。集積所は個別に取り上げるよりはこれらの課題の下位的に捉える。「既存の活動を知らしめる、つなげる取組」というのもある。キャンペーンでは、キャラクター起用が近年の流行だ。学校や子どもと地域をつなげる取組も良いと思う。どんな環境教育や取組があるのかまず把握する必要がある。給食の残飯の

たい肥化などの例もありそうだ。企業との連携も探れると良い。啓発支援・ルールづくり、情報周知・キャンペーン、学校と地域をつなぐ取組の3つでどうか。中森委員 幼稚園・保育園もぜひ対象にしたい。小さいお子さんから始めた方が習慣になるし、大切さをPRできる。幼児は親の関与もそれだけ深い。

萩原委員 楽しいイベントができれば、家族で参加する。ふろん太くんや、区内のキャラクターも活用したい。

井上委員 実は中原アシストクラブで区の提案型事業に応募して、昨年度は生活リズム、今年度は歯磨きというテーマで、人形劇団ひとみ座さんにうちのキャラクターの人形をつくってもらって人形劇をやっている。活動回数の制限などもあるが、認可保育園は全て回って展開している。そこで気づいたのは、親が横にいることが理想で、子どもが家に帰ってその話を結構する。今日幼稚園でふろん太くんが来て、一緒に歯磨きしたんだよ。その歌をずっと歌っている。親は楽しかったんだな、子どもが良いことを学んできたのかなと思っている。マスコット人形はできている。来年はテーマを変えて展開することも可能だと思う。ぜひ活用いただきたい。

事務局（コンサルト） 次回会議に向けて具体事例を集めたい。事務局も集めるが、ぜひ皆さんの活動や御存知の例があれば紹介いただきたい。活動現場の体験や視察、関係者ヒアリングもできると良いと考えている。

成田部会長 今週末のなかはら子ども未来フェスタでもひとみ座の公演がある予定。

萩原委員 企業の取組も紹介できると良い。

事務局（コンサルト） 例えば区内の大企業というところになるのか。

事務局 NECなどがある。

萩原委員 必ずしも大企業である必要はない。法人会などに聞いてみたらあるのではないか。どんなことに取り組んでいるか、どんなことに困っているかという簡単なアンケートで良い。

事務局 行政からの情報提供の方法として、昨年まで転入者には「転入セット」をつくって、町内会加入やごみ分別を含む様々な資料をセットして窓口で配布していた。しかし、転入者が多く窓口では対応しきれないということで、今年からはコーナー形式になっている。いずれにしても、転入者への情報提供には取り組んでいる。外国人の方には外国人向け転入セットを直接渡すようにしている。

松本副部会長 町内会の全国の代表者の会議では、静岡県防災等も含めたセット資料が配布されていた。

事務局 地元で愛着の無い方はルールをつくっても守っていただけないのではないかと懸念がある。

萩原委員 ご自由というコーナーでは持って行かない人も多いただろう。最低のセット、何が最低限かも難しいと思うが、手渡しはぜひやっていただきたい。

事務局 中原区役所では3月末から4月はものすごい数の転入者が窓口に来られる。手続きが3、4時間待ちになることもある。これらの方々にそれぞれ配るには、事前の準備もすごく大変である。いろいろ試行した上で今の形式になった経緯がある。

待ち人数がスマートホンなどに表示されるようになっており、待ち時間に行ける近くの商店街などを案内するシステムはできている。その他ドリンクや音楽などのサービスも検討しているところである。WiFi を使えるような環境もできている。

塚本委員 待ち時間を活用して、情報を楽しく伝える仕組みをぜひ検討していただきたい。

萩原委員 メルマガに登録していただいている方にはそのシステムも活用した情報を提供できないか。

成田部会長 なかはらインフォメーションに登録していると結構いろいろな情報が送られてくる。そこに、転入者向けの特別な項目を立てても良いのではないか。

事務局 中原区のホームページ上に「中原区なう！」というバナーがあり、そこをクリックしていただくと、システムに入っていける。後でぜひ見ていただきたい。

塚本委員 スマートホンを使わせる取組。アプリなど何かうまくできないか。いろいろ調べたり、確認することは非常に面倒くさい印象がある。共稼ぎの方が多い地域でもあるので、役所の開庁時間に行くことはまずできない。

中森委員 イトヨーカドーでペットボトル回収ボックスに出すとポイントがたまるシステムがあり、多くの人が利用している。

井上委員 お金が絡むと参加する人は多い。フリーマーケットに参加するよりも、リサイクルショップに持っていく人が増えている。どんなものでも引き取ってくれ、ごみにならずに済む。区内でも街道沿いなどにリサイクルショップがある。

事務局（コンタクト） 次回に向けて、最後に、知りたい情報や気になる点があればどうぞ。

塚本委員 中原区で今ごみについての重点施策や課題について、情報提供、資料があればいただきたい。

井上委員 アンケート調査について、もう少し目的の内容を明確にする必要があると思う。

事務局 区民会議としてアンケート調査を行うのであれば、全体会議にも図りながら進めていく必要がある。課題調査部会として進める方法もある。

萩原委員 まず課題把握。あまり大きくとらえずに進められると良い。

事務局（コンタクト） 啓発・ルールづくり、意識改革あたりで一つ、学校と地域、環境教育で一つ、イベント・キャンペーン・周知で一つ、といった感じか。今日の議論の整理、次回に向けた資料等はまた改めて作成し、事前送付させていただく。

6 その他

次回の日程について、12月8日（月）16時から、次々回の日程について2月2日（月）午前中（園部委員の都合確認の上最終決定）を確認した。

7 閉会

成田部会長 皆さんの団体の資料や課題等もぜひお寄せいただければと思います。本日はありがとうございました。

以上